「越境」の概念から考える活動と学び再考

－「異端」の学びの展開はあるのか－

本学修了生
早稲田大学　日本語教育研究センター　常勤インストラクター
佐野　香織

近年、高等教育機関の言語教育において、楽しみ・興味・専門性から多様な学びを求める人々が生成的に新たな学びを拓いていく活動が見られるようになった（森岡他 2012）。しかしその多くは教室と教室外、国や地域、人と人の間にある「境界」を越えること、「越境」による個人の変容・学びや、個人の境界問題をとりあげるものである（佐野 2013）。

本発表では、「越境」による個人の多様な学びが、社会や集団の"主流"価値観や言語規範と、折り合いをつけながら合意形成をはかり、"主流"を変えていくことができるのか、その可能性を考えたい。具体的には、「越境」（香川 2015）の概念を用いて、Web ベースの作文支援システムを用いた協働学習実践（佐野 2011,2012）を分析する。そして学習者個人が越境対話を通して得た、能動的にことばの使用に関わり創造していく水平的な学び（エンゲストローム 2008）の行方、いわば「異端」の学びの展開について検討する。